

ハイキンポウゲ	<i>Ranunculus repens</i> L.	絶滅危惧 I 類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(清水英彦)
形態の特徴	根元から長い匍匐枝を出し、節から発根して殖える多年草。茎は高さ15-50cm、葉柄とともに粗い毛がある。根生葉は長い柄があり、1回3出複葉。茎葉の柄は短い。花期は5-6月。花は径約2cmで、淡黄色。集合果はほぼ球形、瘦果は倒卵形で扁平、長さ約3mm。花柱は短く曲がる。	
生態的特徴	池の縁などの湿地に生える。	
分布状況	北海道、本州(東北地方、関東北部)に分布。世界では北半球の亜寒帯～温帯に広く分布する。県内では県北の1地域に生育することが確認された。	
減少要因	本種の分布域は県北の1地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良